

ある夏の日のこと

小川未明

青空文庫

姉^{ねえ}さんは、庭前^{にわさき}のつつじの枝^{えだ}に、はちの巣^すを見^みつけました。

「まあ、こんなところへ巣^すを造^{つく}つて、あぶないから落^おとしてしまおうか。」と、ほうきを持^もつた手^てを抑^{おさ}えてためらいましたが、

「さわらなければ、なんにもしないでしよう。」

せつかく造^{つく}りかけた巣^すをこわすのもかわいそうだと考^{かんが}え直^{なお}して、しばらく立^たち止^どまって、一^いぴきの親^{おや}ばちが、わき見^みもせず、熱^{ねっしん}心に小^{ちい}さな口^{くち}で、だんだんと大^{おお}きくしようと、固^{かた}めていくのをながめていました。そのうちに、はちはどこへか飛^とび去^さりました。なにか材^{ざい}料^{りょう}を探^{さが}しにいったのでしよう、しばらくすると、またもどつてきました。そして、同^{おな}じようなことをうまずに繰^くり返^{かえ}していました。

「このはち一^いぴきだけだろうか。」

彼女^{かのじよ}は、同^{おな}じ一^いぴきのはちが、往^いつたり返^{かえ}つたりして、働^{はたら}いているのしか見^みなかつたからです。

「勇^{ゆう}ちゃんに、だまっていよう。」

見^みつけたら、きつと巣^すを取^とるであらうと思^{おも}いました。

姉^{ねえ}さんは、すわつて、仕事^{しごと}をしながら、ときどき思い出^{おも}したように、日^ひの当^あたる庭前^{にわさき}を見^みました。葉^はの黒^{くろ}ずんだぎくろの木^きに、真^まつ赤^かな花^{はな}が、点^{てん}々と火^ひのともるように咲^さいていました。そして、水盤^{すいばん}の水^{みず}に浮^ういたすいれんの葉^はに、はちが下^おりて止^とまっているのを見^みました。

「あのはちは、さつきのはちかしらん。」

目^めをはなさずに見^みていると、はちは、しばらくたつて、つつじの枝^{えだ}の方^{ほう}へ飛^とんでいきました。

「やはりそうだわ。水^{みず}を飲^{のみ}みにきたんでしよう。」

翌朝^{よくあさ}、庭^{にわ}をそうじするときに、姉^{ねえ}さんは、はちがどうしているだろうとわざわざつつじの木^きのところへいつて、巢^すをのぞいてみました。そこには、昨日^{きのう}の親^{おや}ばちが、やはり一^いぴきで、いっしょうけんめいに巢^すを大^{おお}きくしようとしていました。彼女^{かのじょ}は、はじめてそのとき、一^いぴきのはちの力^{ちから}で造^{つく}られた巢^すに注^{ちゅう}意^いを向^むけたのです。

なんと並^{なみなみ}々^{なみなみ}ならぬ心遣^{こころづか}いと、努力^{どりよく}が、その巢^すに傾^{かたむ}けられていることか。たとえば、雨風^{あめかぜ}に吹^ふかれても容易^{ようい}に折^おれそうもない、じょうぶな枝^{えだ}が選^{えら}ばれていました。また、巢^すのつけ根^ねは、さわつても落ちないように、強^{つよ}そうに黒光^{くろびか}りがしていました。小^{ちい}さな

ちにどうして、こんな智慧があるかと思議に思われたほでした。

「そうだ、これを弟に見せてやろう。そして、りこうなはちが、どうして巢を造り、また子供を育てるのに苦心するかを教えてやろう。そうすれば弟は、ここに巢のあることを知つても、けつして落とすことはあるまい。」と、考えたのでした。午後になつて勇ちゃんは、学校から帰ると、庭に出て、一人で遊んでいました。

「勇ちゃん、はちの巢があつてよ。」

彼女は、弟の顔を見ました。

「ああ、知っている。」

「え、知っているの。」

弟が、どうして、それを落とさなかつたらうと疑われました。

「姉さん、つつじの木だろう。お母さんばかりがひとりで巢を造っているのだよ。」

「ええ、そうなの。」

「このあいだから見ると、だいぶ大きくなつた。あの穴の中に子供がいるんだね。暑いとき、水盤の水を含んでいつて、巢の上を冷やしているよ。」

「まあ。」

そんなくわしいことまで、いつ弟は観察していたのだろうとびっくりしました。
しかし、姉さんは、弟が、どんなにそのはちをかわいがっているかを、まだ知らなかつたのです。

「君、はちの子を持つていくと、ほんとうによく釣れるよ。」
子供たちは、日課のように、みんなで川へ釣りに出かけました。彼らは、血眼になつて、はちの巣をさがしていたのです。勇ちゃんはその話を聞きたびに、庭のはちの巣を目に浮かべました。このごろ母はちの片方の羽がすこし破れているのを考えると、胸が痛くなるのを感じました。ほかの子供は、どこからか、はちの子をさがして持つていくことがあつたが、勇ちゃんだけは、いつもうどん粉の餌を造つて、釣りに出かけたのでした。

青空文庫情報

底本：「定本小川未明童話全集 13」講談社

1977（昭和52）年11月10日第1刷発行

1983（昭和58）年1月19日第5刷発行

底本の親本：「生きぬく力」正芽社

1941（昭和16）年11月

初出：「女子青年 24巻8号」

1941（昭和16）年8月

※表題は底本では、「ある夏《なつ》の日《ひ》のこと」となっています。

入力：特定非営利活動法人はるかぜ

校正：酒井裕二

2017年6月19日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（<http://www.aozora.gr.jp/>）で作られ

ました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

ある夏の日のこと

小川未明

2020年 7月18日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>